

2012 年度 中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

所属	経済学部	身分	教授
氏名	深町 英夫		
NAME			

1. 研究課題

(和文) 近代中国政治体制史の再検討

(英文)

2. 研究期間

2年間

3. 研究の概要 (背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度)

(和文) 2年間にわたって、近代中国における政治体制の転換過程を、世界史的な文脈の中で巨視的に検討することを試みてきた。たいへん残念なことに、この間に日中両国間の関係が緊張したために、中国の研究者と共同で行なう予定であった資料調査を、計画通りには行なうことができなかったが、それでも研究を可能な限り着実に進めるよう努めてきた。

この研究において特に重視したのは、中国における近代的な政治体制の確立に際して、最も重要な意味を持つと考えられる、「法治」と「民意」という統治正統性をめぐる2つの理念が、どのような相互関係を持ってきたかである。そのため、近年になって次第に増えつつある中華民国時代の議会制度・総統制度や「臨時約法」および憲政移行に関する研究の成果を、積極的に収集しつつ分析を加えた。

それに加えて、世界史的な文脈で比較の視点から当該課題を検討するため、中国とは対照的な展開過程をたどったと思われる、近代日本における議会制度の確立過程に着目し、特に地域社会における政党勢力の浸透・拡大に関する資料を収集し、やはり検討を加えつつある。

現在はまだ研究の最終的完成に至っていないが、これまでの部分的な成果を下記の通り、すでに発表している。一つは辛亥革命による中国政治体制の転換が、どのように日本人によって認識されてきたかをめぐるものであり、いま一つは中華民国の最後の時期における代議制度と民族問題との関連をめぐるものである。

(英文)

This project mainly focused on the relationship between the two ideas, i.e. rule of law and democracy, in the process of China's transition from pre-modern despotic regime to modern republican regime. In particular, the mutual influence of the parliamentary institution and constitutional system has been analyzed, which is going to be one of the primary topics of the book to be published as a final conclusion of this project.

4. おもな発表論文等(予定を含む)

<p>【学術論文】(著者名、論文題目、誌名、査読の有無、巻号、頁、発行年月)</p> <p>張玉萍・深町英夫「満族と国民党政権—中華民国末期の満族文化協進会と満族協会」</p> <p>『和光大学表現学部紀要』査読あり、14号、111～124頁、2014年3月</p>
<p>【学会発表】(発表者名、発表題目、学会名、開催地、開催年月)</p>
<p>【図 書】(著者名、出版社名、書名、刊行年)</p> <p>斎藤道彦編著『中国への多角的アプローチ』中央大学出版部、2014年</p> <p>第6章「大陸コンプレックスを越えて—日本人の辛亥革命研究百年史」</p>
<p>【その他】(知的財産権、ニュースリリース等)</p>